



Title	キルギス語の動詞 aa-「降る」に後続する補助動詞：21種類の補助動詞の文法的な意味と特徴
Author(s)	アクマタリエワ, ジャクシルク
Citation	北方言語研究, 13, 61-76
Issue Date	2023-03-20
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/89073">http://hdl.handle.net/2115/89073</a>
Type	bulletin (article)
File Information	04_Akmatalieva.pdf



[Instructions for use](#)

## キルギス語の動詞 *jaa*-「降る」に後続する補助動詞<sup>1</sup> —21 種類の補助動詞の文法的な意味と特徴—

アクマタリエワ ジャクシルク  
(日本学術振興会特別研究員／新潟大学)

キーワード：キルギス語、チュルク諸語、補助動詞、文法的な意味

### 1. はじめに

キルギス語の補助動詞について数多くの研究が行われ、その文法機能が徐々に明らかになってきている (Kudaybergenov 1987, 大崎・シャミシエワ 2018, Ohsaki & Ebata 2021 など)。

筆者は、これまでアクマタリエワ (2009, 2013, 2021a, 2021b, 2022a, 2022b) でキルギス語の補助動詞について網羅的に考察してきた。アクマタリエワ (2009) では授受を表す補助動詞 *ber*-「与える」、*al*-「取る (もらう)」について、アクマタリエワ (2013) では持続を表す補助動詞 *jat*-「横たわる」、*tur*-「立つ」、*otur*-「座る」、*jür*-「動く (歩く)」、アクマタリエワ (2021a) では動作の素早さを表す補助動詞 *iy*-「曲げる」、*jiber*-「送る」、アクマタリエワ (2021b) では、始動を表す補助動詞 *bašta*-「始める」、*kir*-「入る」、アクマタリエワ (2022a) では動作の完遂を表す補助動詞 *čik*-「出る」、アクマタリエワ (2022b) では素早さ・突然性を表す補助動詞 *koy*-「置く」、*sal*-「入れる」、*kal*-「残る」、*tüš*-「下りる」、また Ohsaki & Akmatalieva (2022) では、*kör*-「見る」と *jiber*-「送る」について取り上げて記述してきた。これらの考察の際には、各補助動詞の文法的な意味や各補助動詞に先行する主動詞の語彙的な意味に注目して、主動詞と補助動詞の関連性を明らかにしてきた。しかし、これらの考察は形態的、統語的相違点と共通点を整理するにとどまり、キルギス語の補助動詞の全体像を体系的に論じるにはまだまだ課題が残っている。

本稿では、以上のような補助動詞の捉え方を踏まえながら、補助動詞の意味を異なる視点から考えてみることにする。すなわち、これまでの補助動詞に注視するという視点 (方法) を変えて、ある意味で正反対の視点、つまり、一つの主動詞にどのような補助動詞が後続して現れるか、そして、それらが表す文法的な意味の違いとは何かを考えてみることにする。このような観点から補助動詞を考えることによって、新たな発見ができ、最終的にはキルギス語の補助動詞の全体像の整理と補助動詞間の補完関係を解明することにつながるのではないかと考える。

本稿では自然現象の動きを表す動詞 *jaa*-「降る」を考察対象の主動詞として取り上げる。*jaa*-「降る」には数多くの種類の補助動詞が後続して現れると予想されるからである。なお、本稿では補助動詞の文法的な意味のみではなく、統語論・形態論的な条件 (副詞句及び副詞

<sup>1</sup> 本研究は、科研費 (研究課題 21J40129, 21H04346, 22H00657) 及び東京外国語大学 AA 研の共同研究課題「チュルク諸語における情報構造と知識管理—音韻・形態統語・意味のインターフェイサー」による成果の一部である。本稿の内容は、日本北方言語学会第 5 回大会 (2022/11/26、静岡大学+オンライン開催) での発表内容に加筆、修正を加え、執筆したものである。コメントをくださったすべての方々、日本語校関係の方々、及び本論文の匿名査読者 2 名に感謝申し上げる。

相当句、主体、述語形式など)にも注目し、総合的に分析・考察を行う。

まず、考察にあたり、キルギス語における補助動詞構文の構造について簡単に説明しておきたい。キルギス語の補助動詞は、動詞の副動詞形に後続する形、すなわち「動詞-副動詞接尾辞 補助動詞」という形で用いられる。副動詞接尾辞にはいくつかの形式があるが、本研究で考察対象とするのは、次の二つの形式である。

- ① 共起副動詞形 *jaa-y*
- ② 継起副動詞形 *jaa-p*

以下、キルギス語母語話者である筆者の作例を元に説明すると、(1)では①共起副動詞形 *jaa-y*、(2)では、②継起副動詞形 *jaa-p* が用いられている。本稿では以下 *jaay*、*jaap* と表記することにする。

(1) *jamgır jaa-y bašta-di*  
雨 降る-CVB 始める-PST.3  
「雨が降りはじめた」

(2) *jamgır jaa-p jat-a-t*  
雨 降る-CVB 横たわる-PRES-3  
「雨が降っている」

本稿の構成は、次の通りである。第2節では、調査方法を提示する。第3節では、*jaay*に後続する補助動詞と、*jaap*に後続する補助動詞に分け、考察を行う。文中に現れる副詞句及び副詞相当句、主体と述語形式の特徴についても言及する。最後に、第4節では本稿の議論を総括する。

## 2. 調査方法

本稿における動詞 *jaa*-「降る」のデータは主にインターネット Google 検索 (2022年5月1日~2022年7月7日)により収集したものである。インターネット検索を利用した理由は、自然現象の動きを表す動詞の用例が、新聞記事や文学作品からは十分に収集できないからである。

今回の収集結果から、*jaa*-「降る」に後続する補助動詞の用例数は次の通りである。本稿ではこれらの全239例を元に分析・考察を行う。

[表1] 調査結果

	副動詞形	用例数
1	<i>jaay</i>	37例
2	<i>jaap</i>	202例
合計		239例

また、本稿で引用するすべての用例の翻訳、ラテン文字転写、用例番号、グロス、文字飾り、図表は、特にことわりのない限り筆者によるものである。補助動詞のグロスは AUX (補助動詞) ではなく、本来の語彙的な意味 (例: *koy-*「置く」、*kal-*「残る」、など) を表記することにする。そして、副詞句及び副詞相当句は波線で示す。動詞の副動詞形が副詞相当句として現れる場合には、グロスで CVB (副動詞) と記さずに副詞相当句として扱う<sup>2</sup>。

なお、考察の対象が *jaa-*「降る」という動詞であることから、雨や雪などの自然現象の音や様子などを描写するいわゆるオノマトペのような副詞相当句が数多く現れる。日本語訳は容易ではなかったが、可能な限り、日本語のオノマトペに合うような訳を心がけた。しかし、翻訳が難しいものもあり、正確に訳せていない可能性もあり得ることを申し添えておく。

### 3. 考察

本節では、補助動詞が *jaay* に後続する場合 (全 37 例) と、*jaap* に後続する場合 (全 202 例) に分けて、各補助動詞について詳細に見ていく。それぞれの節で文中に現れる副詞句及び副詞相当句、主体、述語形式の特徴についても分析・考察を行う。

#### 3.1. *jaay* に後続する補助動詞

調査の結果から、*jaay* には、4 種類の補助動詞が後続して現れた。詳細は表 2 の通りである。最も多く出現した補助動詞は *bašta-*「始める」(19 例)、次に *ber-*「与える」(15 例)であった。用例数は少ないが、*tüš-*「下りる」(2 例)、*kel-*「来る」(1 例)の補助動詞も見られた。

[表 2] *jaay* に後続して現れる補助動詞 (用例数の多い順)

	補助動詞	語彙的な意味	用例数
1	<i>bašta-</i>	始める	19
2	<i>ber-</i>	与える	15
3	<i>tüš-</i>	下りる	2
4	<i>kel-</i>	来る	1
合計			37 例

まず、*jaay bašta-*「降り始める」の場合、ある時を境に、主体 (自然現象) がある動きを始めること、すなわち、その動きの「始動」を表す。

<sup>2</sup> キルギス語には *tez*「早く」、*daroo*「すぐに」などのような質や様態を表わす単純な副詞、*köp*「たくさん」、*bir az*「ちょっと」などのように量や程度を表す副詞、*azir*「今」、*janı ële*「つい先ほど」などのように時間を表す副詞が存在する。これらの他にも、例えば、*näsörlögön*「どしゃどしゃとした」、*katuulap*「強くなって」、*tibirap*「ぼつりぼつりと」などのように、形態的には形動詞形や副動詞形であるものが、自然現象の音や様子などを描写する副詞と同じような働きをすることがある。このような語も含め、広く「副詞相当句」としている。

(3) *Saat 19:00 dö jamgür jaa-y bašta-dī.*

時計 19時-LOC 雨 降る-CVB 始める-PST.3

「19時に雨が強く降りはじめた。」

次に、*ber-*「与える」の場合、主体（自然現象）のある動きがある一定の期間において「持続」していることを表す。*jaay ber-* の場合、*toktoboču*「止まらないで」、*toktoboy*「止まらず」、*ulam küčöp*「徐々に強まり」、*tinbastan*「休まず」、*toktoboston*「止まらず」のような副詞相当句が出現していることも確認できる（表3を参照）。なお、次節で述べる *jaap ber-* の場合には、このような副詞相当句は出現しない。

(4) *Kar balpalaktap jaa-y ber-dī.*

雪 しんしんと 降る-CVB 与える-PST.3

「雪がしんしんと降りつづいた。」

*tüš-*「下りる」について Yuldašev (1965:80) は、キルギス語の *tüš-* は命令形で現れ、動きの「持続」を表すとしている。本調査からは命令形のみではなく、(6) のように、*tüš-* が過去形で現れる例も現れた。

(5) *Jamgür; jamgür; jaa-y tüš, badıraŋ-īm barsay-sin.*

雨 雨 降る-CVB 下りる きゅうり-POSS.1SG 大きくなる-IMP.3

「雨よ、雨よ、降りつづけなさい、(私の) キュウリが大きくなりますように。」

(6) *bir saam-ga mayda ak kar jaa-y tüš-tü.*

一 時-GEN 細かい 白い 雪 降る-CVB 下りる-PST.3

「いつとき、細かくて白い雪が降りつづいた。」

最後に、1例しか現れなかったが、補助動詞 *kel-*「来る」は、動きの「進展」を表す。

(7) *bir kez-de kün ötkündöp jaa-y kel-dī.*

ある時-LOC 日 ぽつぽつと 降る-CVB 来る-PST.3

「ある時、雨がぽつぽつと降ってきた。」

さらに、文中に現れる副詞相当句、主体及び述語形式の特徴についても述べておきたい。以下、表3に文中に現れる副詞及び副詞相当句についてまとめる。

[表 3] 文中に現れる副詞句及び副詞相当句

補助動詞	共起する副詞句及び副詞相当句
<i>bašta-</i> 「始める」	<i>akirindan</i> 「少しずつ」、 <i>bir maalda</i> 「ある時」、 <i>dibir-dibir</i> 「ぼつぼつと」、 <i>kayta dagi</i> 「再び」、 <i>kilamiktap</i> 「しんしんと」
<i>ber-</i> 「与える」	<i>balpaktap</i> 「しんしんと」、 <i>borošolop</i> 「風混じりに」、 <i>katuu</i> 「強く」、 <i>ulam küčöp</i> 「徐々に強まって」、 <i>maydalap</i> 「細かく」、 <i>tinbasta</i> 「休まず」、 <i>toktoboču</i> 「止まらないで」、 <i>toktoboy</i> 「止まらず」、 <i>toktoboston</i> 「止まらず」
<i>tüš-</i> 「下りる」	<i>mayda</i> 「細かな」
<i>kel-</i> 「来る」	<i>ötkündöp</i> 「ぼつぼつと」

表 3 には、各補助動詞が表す意味に呼応するような副詞句及び副詞相当句が現れたと言える。雨が降り始める様子を表す *akirindan* 「少しずつ」、*bir maalda* 「ある時」、*dibir-dibir* 「ぼつぼつと」、*kayta dagi* 「再び」、などのような副詞相当句が見られた。そして、「持続」を表す *ber-* 「与える」の場合、雨の降る動きが続いていることを描写する *ulam küčöp* 「徐々に強まって」、*toktoboston* 「止まらず」、*maydalap* 「細かく」のような副詞相当句が目立つ。また、補助動詞 *kel-* 「来る」の場合、*ötkündöp* 「ぼつぼつと」のように雨が降り始め、空から落ちてくる様子が分かるような副詞相当句が出ている。

次に、主体について触れておくと、主に *jamgir* 「雨」、*jaan* 「雨」、*kar* 「雪」であり、特に目立った特徴は見られなかった。中には *kün* 「日」という表現が見られる文もあるが、これは比喩的に用いられており、「雨」を指す。

さらに、述語形式について言うと、表 4 で示したように、全部で 2 種類の述語形式が見られた。特に、「始動」を表す補助動詞 *bašta-* 「始める」の場合、19 例全てが過去形で現れた。一方で、命令形で現れるのは *tüš-* 「下りる」と *ber-* 「与える」のみである。*tüš-* 「下りる」について Yuldašev (1965: 80) は、*tüš-* は主に命令形で現れると指摘しているが、本調査から 1 例ではあるが、過去形で使用されることが確認できる。

[表 4] *jaay* に後続して現れる補助動詞の述語形式

	述語形式	用例数	付加する補助動詞(用例数の多い順)
1	3 人称・過去形	31	<i>bašta-</i> 「始める」(19 例)、 <i>ber-</i> 「与える」(10 例)、 <i>tüš-</i> 「下りる」(1 例)、 <i>kel-</i> 「来る」(1 例)
2	3 人称・命令形	6	<i>ber-</i> 「与える」(5 例)、 <i>tüš-</i> 「下りる」(1 例)

以上の考察より、*jaay* に後続して現れる補助動詞は、開始の局面を表す補助動詞 (*bašta-* 「始める」、持続の局面を表す補助動詞 (*ber-* 「与える」、*tüš-* 「下りる」、*kel-* 「来る」) に限られることが明らかとなった。次節で後述する終了の局面を表す補助動詞は後続して出現しない結果となった。

### 3.2. *jaap* に後続する補助動詞

今回の調査からは *jaap* に後続して現れる補助動詞は全部で 20 種類あった。詳細は表 5 の

通りである。

[表 5] *jaap* に後続して現れる補助動詞 (用例数の多い順)

	補助動詞	語彙的な意味	用例数		補助動詞	語彙的な意味	用例数
1	<i>kir-</i>	入る	36	11	<i>tašta-</i>	捨てる	7
2	<i>jat-</i>	横たわる	30	12	<i>koy-</i>	置く	6
3	<i>kel-</i>	来る	20	13	<i>büt-</i>	終わる	4
4	<i>bašta-</i>	始める	16	14	<i>tokto-</i>	止む	4
5	<i>jiber-</i>	送る	15	15	<i>ber-</i>	与える	4
6	<i>öt-</i>	過ぎる	14	16	<i>kal-</i>	残る	3
7	<i>tur-</i>	立つ	14	17	<i>iy-</i>	曲げる	3
8	<i>sal-</i>	入れる	8	18	<i>kör-</i>	見る	1
9	<i>čik-</i>	出る	8	19	<i>otur-</i>	座る	1
10	<i>ket-</i>	去る	7	20	<i>bol-</i>	なる	1
				合計			202 例

結論から言うと、*jaap* に後続する補助動詞は、開始の局面を表す補助動詞、持続の局面を表す補助動詞、終了の局面を表す補助動詞、授受や試行を表す補助動詞である。詳細は表 6 の通りである。

[表 6] *jaap* に続いて現れた補助動詞

① 開始 (90 例)	<i>kir-</i> 「入る」 (36 例), <i>kel-</i> 「来る」 (20 例), <i>bašta-</i> 「始める」 (16 例), <i>jiber-</i> 「送る」 (15 例), <i>iy-</i> 「曲げる」 (3 例)
② 持続 (45 例)	<i>jat-</i> 「横たわる」 (30 例), <i>tur-</i> 「立つ」 (14 例), <i>otur-</i> 「座る」 (1 例)
③ 終了 (62 例)	<i>öt-</i> 「過ぎる」 (14 例), <i>sal-</i> 「入れる」 (8 例), <i>čik-</i> 「出る」 (8 例), <i>tašta-</i> 「捨てる」 (7 例), <i>ket-</i> 「去る」 (7 例), <i>koy-</i> 「置く」 (6 例), <i>büt-</i> 「終わる」 (4 例), <i>tokto-</i> 「止む」 (4 例), <i>kal-</i> 「残る」 (3 例), <i>bol-</i> 「なる」 (1 例)
④ 授受 (4 例)	<i>ber-</i> 「与える」 (4 例)
⑤ 試行 (1 例)	<i>kör-</i> 「見る」 (1 例)

次に、これらの文の主体について述べると、*jamgür* 「雨」、*jaan* 「雨」、*kar* 「雪」、*möndür* 「雹」などであり、それぞれが液体または固体の一定のかたまりである。中には、*kün* 「日」、*jer ene* 「大地の母」という表現もあがっているが、ここでは比喩的に用いられており、「雨」を指している。

また、述語形式について触れると、過去形 (178 例)、現在形 (20 例)、動名詞 (3 例)、過去形+疑問助詞 (1 例) の四つの形式が出現した。この中でも最も多いのは過去形である。「過去形」には、開始の局面を表す補助動詞、終了の局面を表す補助動詞が圧倒的に多い。「現在形」は「持続」を表す補助動詞 *jat-* 「横たわる」の場合にしか現れなかった。一方の

*tur-*「立つ」、*otur-*「座る」の場合の述語形式に注目してみると、いずれも「過去形」でのみ現れている。前節の *jaay* の場合に出現した動詞の命令形は、*jaap* の場合には出現しなかった。これは今回の調査でたまたま出現しなかっただけという可能性もあり、今後、吟味する必要がある。

以下、表 6 で示した分類ごとに（開始の局面を表す補助動詞、持続の局面を表す補助動詞、終了の局面を表す補助動詞、また授受や試行を表す補助動詞）詳細にみていく。

① 開始を表す補助動詞 (90 例)

*kir-*「入る」(36 例)、*bašta-*「始める」(16 例)、*jiber-*「送る」(15 例)、*kel-*「来る」(20 例)、*iy-*「曲げる」(3 例)

キルギス語の場合、「雨や雪などが時間的にいつ降り始めたか」、「雨や雪などがどのように降り始めたか」によって異なる補助動詞が使用される (アクマタリエワ 2021a)。まず、*jaa-*「降る」に補助動詞 *bašta-*「始める」が後続した場合には、雨や雪がいつ降り始めたかを表す。一方で、*kir-*「入る」は、雨や雪が降り始めた様子を表すのに使用される。

- (8) *8-oktyabr-da saat 9:00-dön tarta kar jaa-p bašta-dī.*  
 8-10月-LOC 時計 9時-ABL 以降 雪 降る-CVB 始める-PST.3  
 「10月8日の9時から雪が降りはじめた。」

- (9) *Az-dan kiyin kün kürküröp jaap kir-di.*  
 少し-ABL 後 日 轟くように 降る-CVB 入る-PST.3  
 「少し時間が過ぎてから雨が轟くように降りだした。」

*bašta-*「始める」の場合、*ubakta*「～の時に」、*tanga maal*「朝方に」、*bügün*「今日」といった、いつ降り始めたかを表す副詞句や副詞相当句が現れるのに対し、*kir-*「入る」の場合、*balpildap*「しんしんと」、*tibirap*「ぼつりぼつりと」、*katuulap*「強くなって」、などのように、雨や雪などの降り方の様子を表現する副詞相当句が現れる (表 7 を参照)。

また、*jiber-*「送る」、*iy-*「曲げる」、*kel-*「来る」という補助動詞も雨や雪などが降り始めたことを表すが、文中に現れる副詞相当句の種類によって、「どのように降り始めたか」という様子がより詳細に表現される。例えば、*jiber-*「送る」と *iy-*「曲げる」の場合、*kün ačik turup ėle*「天気が晴れだったのにもかかわらず」、*jup*「ちょうど～の時に」のように、雨が突然降りだす状況が表現されている。

- (10) *Anan kün ačik tur-up ėle jaan jaa-p jiber-di.*  
 その後 日 晴 立つ-CVB PART 雨 降る-CVB 送る-PST.3  
 「その後、天気が晴れだったのにもかかわらず、雨が (突然) 降りだした。」



- (11) *Men ĵup ĵet-ken-de ěle ĵaan ĵaa-p iy-di.*  
 私 ちょうど 着く-PTCP-LOC PART 雨 降る-CVB 曲げる-PST.3  
 「私がちょうど着いた時に、雨が（突然）降りだした。」

*kel*-「来る」は、ある状況が進展的に変化していくことを表す。次の文中でも *ulamdan ulam* 「徐々に」という副詞相当句との共起により雨や雪などが降る度合いが少しずつ増しながら進展することを表している。

- (12) *Kar ulam-dan ulam kōbōy-ūp ĵaa-p kel-di.*  
 雪 次-ABL 次 増える-CVB 降る-CVB 来る-PST.3  
 「雪が徐々に増えつつ降ってきた。」

ちなみに、*ulamdan ulam* 「徐々に」という副詞相当句は *ĵiber*-「送る」、*iy*-「曲げる」と共起することはできない。母語話者としての内省によれば、意味が通じず、非文になってしまう (13)。

- (13) \**Kar ulam-dan ulam kōbōy-ūp ĵaa-p ĵiber-di.*  
 雪 次-ABL 次 増える-CVB 降る-CVB 送る-PST.3  
 「雪が徐々に増えつつ降ってきた。」

最後に、各補助動詞と共起する副詞句及び副詞相当句の詳細を以下の表 7 に提示する。

[表 7] 文中に現れる副詞句及び副詞相当句

<i>kir</i> - 「入る」	<i>balpildap</i> 「しんしんと」、 <i>borošolop</i> 「風混じりに」、 <i>bürkölüp</i> 「曇って」、 <i>dibirap</i> 「ぼつぼつと」、 <i>ĵamgirday</i> 「雨のように」、 <i>katuulap</i> 「強くなって」、 <i>kar aralaš</i> 「雪混じりに」、 <i>kōz ačilbay</i> 「強烈に」、 <i>kürküröp</i> 「雷が鳴って」、 <i>samparlap</i> 「しーんと」、 <i>maydalap</i> 「細かく」、 <i>muzdap</i> 「冷たく」、 <i>nōšörlögön</i> 「どしゃどしゃとした」、 <i>lapildap</i> 「しんしんと」、 <i>tibirap</i> 「ぼつりぼつりと」
<i>kel</i> - 「来る」	<i>borošolop</i> 「風混じりに」、 <i>dagi</i> 「さらに」、 <i>dibirap</i> 「ぼつぼつと」、 <i>dibiratip</i> 「ぼつぼつと」、 <i>ĵane ěle</i> 「ちょうど先」、 <i>zamparlap</i> 「しんしんと」、 <i>kar aralaš</i> 「雪混じりに」、 <i>katuu</i> 「強く」、 <i>ulamdan ulam</i> 「徐々に」、 <i>šatirap</i> 「ぎーぎーと」、 <i>šibirgaktap</i> 「がさがさと」、 <i>ötö katuu</i> 「激しく」
<i>bašta</i> - 「始める」	<i>aga čeyin</i> 「それまでに」、 <i>bir maalda</i> 「ある時に」、 <i>bir ubakta ěle</i> 「ある時に」、 <i>bügün</i> 「今日」、 <i>kokustan ěle</i> 「突然」、 <i>köp ötpöy</i> 「暫くして」、 <i>22-oktyabr' künü</i> 「10月22日に」、 <i>ošol künü</i> 「その日に」、 <i>ubakta</i> 「時に」、 <i>taŋga maal</i> 「朝方に」
<i>ĵiber</i> - 「送る」	<i>balbalaktap</i> 「しんしんと」、 <i>kün čigip turup ěle</i> 「晴れているのに」、 <i>40metre čeyin</i> 「40メートルまで」、 <i>nōšörlöp</i> 「どしゃどしゃと」、 <i>öčöšköndöy</i> 「わざとらし

	く, <i>öçöškönsüp</i> 「わざとらしく」, <i>möndür aralaş</i> 「雹混じりに」, <i>šatırap</i> 「ぎざーぎざーと」, <i>šatıratıp</i> 「ぎざーぎざーとして」
<i>iy-</i> 「曲げる」	<i>bat</i> 「素早く」, <i>jup</i> 「ちょうど」, <i>kapıstan</i> 「いきなり」

② 持続の局面を表す補助動詞 (45 例)

*jat-*「横たわる」(30 例), *tur-*「立つ」(14 例), *otur-*「座る」(1 例)

「持続」には発話時点において、雨や雪などが降る動きが続いていることを表す補助動詞が入る。キルギス語の場合、動作の進行を表す補助動詞としては、*jat-*「横たわる」、*tur-*「立つ」、*otur-*「座る」、*jür-*「動く(歩く)」が使われることが知られている(アクマタリエワ 2013)が、今回の調査では、動詞 *jaa-*「降る」に *jür-*「動く(歩く)」が後続して現れる用例は見られなかった。これは、補助動詞 *jür-* が主に主体の「活動動作を表す動詞」、「長期的な活動動作を表す動詞」、「移動動作を表す動詞」に後続して用いられるため(アクマタリエワ 2013: 183-198)、*jaa-* のような自然現象の動きを表す動詞とは組み合わせられにくいからだと考えられる。

(14) *Aydooçu-lar-ga* *ěskertüü!*

運転手-PL-DAT 注意勧告

*Töö-Aşuu menen Suusamır-da kar jaa-p jat-a-t.*

PN と PN-LOC 雪 降る-CVB 横たわる-PRES-3

「運転手に注意勧告！トゥー・アシューとスーサムルでは雪が降っている。」

(15) *Anın aytım-ı-nda, möndür bir neče ayıl-dar-da*

彼の言うこと-POSS.3-LOC 雹 いくつか 村-PL-LOC

*deerlik 20 münöt-töy jaa-p tur-du.*

約 20 分-くらい 降る-CVB 立つ-PST.3

「彼の話によると、雹はいくつかの村において約 20 分降っていた。」

*jat-*「横たわる」と *tur-*「立つ」は、*jaap* に後続するだけで「雨や雪などが降り続けている」ことが表されるが *otur-*「座る」は、*jaap otur-* のみでは「持続」の意味が表せない。以下のように *joldu katar*「移動中」という副詞相当句が現れる場合に、「持続」の意味が現れると考える。つまり、この副詞相当句がなければ、*otur-*「座る」だけでは「持続」の意味に取れず、単なる非文になってしまう (17)。

(16) *ǰol-du katar jamgır jaa-p otur-du.*

道-ACC 沿 雨 降る-CVB 座る-PST.3

「移動中、雨が(ずっと)降っていた。」

- (17) \**jamgür jaa-p otur-du.*  
 雨 降る-CVB 座る-PST.3  
 「雨が降っていた。」

[表 8] 文中に現れる副詞句及び副詞相当句

<i>jat-</i> 「横たわる」	<i>bügün</i> 「今日」, <i>burganaktap</i> 「どしゃどしゃと」, <i>tündön beri</i> 「夜からずっと」, <i>üç kündön beri</i> 「三日間ずっと」, <i>maal maali menen</i> 「時々」, <i>nöşörlöp</i> 「どしゃどしゃと」, <i>lapıldap</i> 「しんしんと」, <i>toktoboy</i> 「止まず」
<i>tur-</i> 「立つ」	<i>bir jumadan beri</i> 「一週間前から」, <i>bir neçe saat boyu</i> 「何時間もずっと」, <i>lapıldap</i> 「しんしんと」, <i>ëç toktoboy</i> 「全く止まずに」, <i>20 münöttöy</i> 「20分ぐらい」, <i>nöşörlöp</i> 「どしゃどしゃと」, <i>samsaalap</i> 「しんしんと」, <i>tamçilap</i> 「ぼつぼつと」, <i>tiniimsiz</i> 「休まず」, <i>toktoboy</i> 「止まず」
<i>otur-</i> 「座る」	<i>jöldu katar</i> 「移動中」

③ 終了の局面を表す補助動詞 (62 例)

今回の調査から *jaa-*「降る」に後続する補助動詞のうち、終了の局面を表す補助動詞の種類が非常に多い (10 種類) ことが明らかになった。

*öt-*「過ぎる」(14 例), *sal-*「入れる」(8 例), *çik-*「出る」(8 例), *tašta-*「捨てる」(7 例), *ket-*「去る」(7 例), *koy-*「置く」(6 例), *büt-*「終わる」(4 例), *tokto-*「止む」(4 例), *kal-*「残る」(3 例), *bol-*「なる」(1 例)

これらの補助動詞は *jaa-*「降る」という動きが「終わった」ことを表す。但し、その終わり方を表すのに 10 種類の異なる補助動詞が使用されている。それぞれどのような類似点・相違点をもつのだろうか。その違いを文中に現れる文法的な条件を基に見いだしてみよう。

まず、雨や雪などが単純に降りおわったことを表す補助動詞としては、*büt-*「終わる」、*bol-*「なる」、*tokto-*「止む」があげられる。

- (18) *Bul işembi kün-ü keç-i-nde jana tünkü-sü-n bulut kapta-p,*  
 この 土曜日 日-POSS.3 夕方-POSS.3-LOC 又 夜-POSS.3-ACC 雲 覆う-CVB  
*andan kiyin kar jaa-p büt-tü.*  
 その 後 雪 降る-CVB 終わる-PST.3  
 「この土曜日の夕方と夜中に雲がかかって、その後、雪が降りおわった。」

- (19) *Birinçi kar ötköndö jaa-p bol-du,*  
 一番目 雪 先日 降る-CVB なる-PST.3  
*dagı küt-üp jat-a-m ëkinçi kar-di.*  
 再 待つ-CVB 横たわる-PRES-1SG 二番目 雪-ACC  
 「初雪は先日、降りおわった。また二回目の雪を待っている。」

- (20) *Keče ayabay katuu jaan jaa-p tokto-du.*  
 昨日 とても 強い 雨 降る-CVB 止む-PST.3  
 「昨日はとても強い雨が降りやんだ。」

次に、ある一定の長い期間にわたって、雨や雪などがずっと降って、そしてその「降る」という動きが完全に終わったことを表すのは、補助動詞 *čik*-「出る」である。*čik*-「出る」の場合に、文中に *tünü menen*「夜中ずっと」のような副詞相当句が使用されるのが必須条件となることが特徴的である（アクマタリエワ 2022a）。副詞相当句がなければ、非文になってしまう（22）。

- (21) *Kara-Buura rayon-u-nda tün-ü menen kar jaa-p čik-ti.*  
 PN 区-POSS.3-LOC 夜-POSS.3 で 雪 降る-CVB 出る-PST.3  
 「カラ・ブラ州では夜中ずっと雪が降っていた。」

- (22) \* *Kara-Buura rayon-u-nda kar jaa-p čik-ti.*  
 PN 区-POSS.3-LOC 雪 降る-CVB 出る-PST.3  
 「カラ・ブラ州では雪が降っていた。」

さらに、用例数が一番多かった *öt*-「過ぎる」（全 14 例）の用例を見てみよう。*öt*-「過ぎる」は、雨や雪などが短時間で「降りおわった」という事柄を表す。補助動詞 *öt*-「過ぎる」が用いられた文に現れる主体として *jamgür*「雨」、*kar*「雪」だけではなく、*ötkün*「夕立」や *möndür*「雹」なども出ることが特徴的である。

- (23) *İsik-Köl öröön-ü-ndö möndür jaa-p öt-tü,*  
 PN 地方-POSS.3-LOC 雹 降る-CVB 過ぎる-PST.3  
*möndür keče da jaa-gan.*  
 雹 昨日 も 降る-PST.3  
 「イシク・クル地方では雹が降った。雹が昨日も降った。」

- (24) *Dibirap ötkün jaa-p öt-tü.*  
 ぽつぽつと 夕立 降る-CVB 過ぎる-PST.3  
 「ぽつぽつと夕立が降った（通りすぎた）。」

*öt*-「過ぎる」と同様に、短時間で降りおわることを表すものとして、*ket*-「去る」もあげられる。「思いがけなく、雪が降っていった」ということを表す。

- (25) *Küt-ül-bö-gön jer-den bir neče santimetrlik kar jaa-p ket-ti.*  
 待つ-PASS-NEG-PTCP 所-ABL いくつか センチメートル 雪 降る-CVB 去る-PST.3  
 「待っていないところに（驚いたことに）、数センチもの雪が降った。」

そして、いつもとは違い、珍しい降り方をしていた雨や雪が降り終わったことを表すのは、*sal-*「入れる」と *tašta-*「捨てる」である。この場合、*kalij*「重く」、*22sm*「22センチ」などのように通常とは異なる異常な降り方を表す副詞相当句が現れる。ちなみに、*sal-*「入れる」と *tašta-*「捨てる」のすべての例において、主体は *kar*「雪」であった。筆者の内省では、雨の場合に *sal-*「入れる」と *tašta-*「捨てる」が使用できないように思われる。理由を考えてみると、*kar*「雪」は空から降ってくる氷の結晶であり、解けずにそのまま地面に落ちてきて目に見える物体だからかもしれない。つまり、*kar*「雪」は、目の前に見えて、降った後の結果状態が続く場合に、補助動詞の *sal-*「入れる」と *tašta-*「捨てる」が選ばれているかもしれないと考える。

まず、雪が多く降ったことを表す例としては次のものがあげられる。

- (26) *Alay-da 22sm kar ĵaa-p sal-dī kör-gülö.*  
 PN-LOC 22センチ 雪 降る-CVB 入れる-PST.3 見る-IMP.2PL  
 「アライには 22センチの雪が降ってしまった。見てくださいよ。」

- (27) *Alaykuu öröön-ü-ndö kar abdan ěle kalij ĵaa-p tašta-dī.*  
 PN 地方-POSS.3-LOC 雪 とても PART 重い 降る-CVB 捨てる-PST.3  
 「アライクー地方では雪が とても重く降ってしまった。」

なお、例 (28) の場合、雨や雪などが例年はたくさん降るのだが、最近はあまり多くは降らなくなったという変化を表す。

- (28) *Kar az ĵaa-p kal-dī.*  
 雪 少し 降る-CVB 残る-PST.3  
 「雪が 少なく降るようになった。」

[表 9] 文中に現れる副詞句及び副詞相当句

<i>öt-</i> 「過ぎる」	<i>dibirap</i> 「ぼつぼつと」、 <i>katuu</i> 「強く」、 <i>sebelep</i> 「ぼつりぼつりと」、 <i>uč jolu</i> 「三回」、 <i>tamčilap</i> 「ぼつぼつと」
<i>tašta-</i> 「捨てる」	<i>bir tünü</i> 「ある夜」、 <i>dagı</i> 「さらに」、 <i>kadimkidey</i> 「本当のように」、 <i>kalij</i> 「重く」、 <i>lakıytip</i> 「しんしんと」、 <i>soŋku tapta</i> 「先週」、 <i>oor</i> 「重く」
<i>čik-</i> 「出る」	<i>tünü menen</i> 「夜の間ずっと」、 <i>tünü boyu</i> 「夜中ずっと」
<i>ket-</i> 「去る」	<i>ĵarım metrge čeyin</i> 「半メートルも」、 <i>kütülbögön</i> 「突然」
<i>tokto-</i> 「止む」	<i>ĵarım metrge čeyin</i> 「半メートルも」、 <i>kütülbögön</i> 「突然」
<i>koy-</i> 「置く」	<i>katuu</i> 「強く」、 <i>kičine</i> 「少し」
<i>büt-</i> 「終わる」	<i>andan kiyin</i> 「その後」、 <i>kalij</i> 「重く」
<i>sal-</i> 「入れる」	<i>kalij</i> 「重く」
<i>kal-</i> 「残る」	<i>az</i> 「少し」
<i>bol-</i> 「なる」	<i>ötköndö</i> 「先日」

④ 授受を表す補助動詞 (4 例)

*ber*-「与える」(4 例)は、継続副動詞形に後続する場合、「授受」の意味を表す(Kudaybergenov 1987, アクマタリエワ 2009)。授受を表す表現は一般的には、人がものや恩恵を与えたり、受け取ったりする表現ではあるが、主体が物や自然現象の場合にも使用される(アクマタリエワ 2009: 13-14)。今回の調査でも、自然現象の動きを表す動詞 *jaa*-「降る」に補助動詞 *ber*-「与える」が持続する文が 4 例出現している。

(29) *Birok Olimpiada baštal-gan kün-ü kar jakšilap jaa-p ber-di.*

しかし オリンピック 始まる-PTCP 日-POSS.3 雪 良く 降る-CVB 与える-PST.3

「しかし、オリンピックが始まった日に雪が都合よく降ってくれた。」

これは授受を表す典型的な用法ではないが、*kar*「雪」のような自然現象が主体として現れる場合、*ber*-「与える」は利益を授ける意味になり、適格になる。また、このことが話し手にとって雨や雪が降ることが良いことであることを表すような副詞相当句からもうかがえる。

なお、今回の調査からは、補助動詞の *al*-「取る(もらう)」が *jaap* に後続して現れる用例は 1 例も見られなかった。補助動詞 *al*- は主に動作主が自分自身の利益のために行う行為を表し、動作の結果は動作主自身に向けられる(Yudahin 1965: 43, アクマタリエワ 2009: 5)。したがって、自然現象のような無情物が恩恵を「受ける」者の位置にくる場合、不適格になると考えられる。

[表 10] 文中に現れる副詞句及び副詞相当句

<i>ber</i> -「与える」	<i>bapildap</i> 「ざあざあと」, <i>jakšilap</i> 「よく」, <i>öz ubagında</i> 「良い時期に」
-------------------	---

⑤ 試行 (1 例)

*kör*-「見る」は基本的に意志的な動作を表す主動詞に後続して用いられ、「試しに～してみる」という意味で使われる(Kudaybergenov 1987, Ohsaki & Akmatallieva 2022)。しかし、本稿の考察対象である「雨や雪など」は自然現象であり、動詞 *jaa*-「降る」は意志的な動作とは言えない。しかし、以下の文は昔話に出てくる文であり、*jamgür*「雨」を生き物に見立てて表現した、擬人化したものであると考えられる。

(30) *Baka-lar-ga jamgür jaa-p kör-dü bele?*

蛙-PL-DAT 雨 降る-CVB 見る-PST.3 Q

「カエルたちに雨が降ってみたのか？」

4. おわりに

本稿では、キルギス語の自然現象の動きを表す動詞 *jaa*-「降る」が主動詞である例だけを収集して、考察対象とした。考察の際に、各補助動詞の文法的な意味を確認したうえで、統語論・形態論的な条件(副詞句及び副詞相当句、主体、述語形式など)に注目し、総合的に

分析・考察を行った。その結果、次のことが明らかになった。

まず、*jaay* に後続する場合、雨や雪などの降る動きの終了の局面を表す補助動詞が出現せず、開始の局面と持続の局面を表す補助動詞のみが現れた。主体について言えば、*jamgir* 「雨」、*jaan* 「雨」、*kar* 「雪」などが現れ、特に目立った偏りは見られなかった。述語形式は主に過去形と命令形だった。但し、今回の調査ではそもそも *jaay* の用例が少ないことから、十分な結果であると言えず、さらに用例を増やして再調査する必要がある。

次に、*jaap* に後続して現れる場合、雨や雪などの降る動きの「始まり、続き、終わり」などを表す様々な補助動詞が現れた。すなわち、「降る」動きの開始の局面が 5 種類の補助動詞 (*kir-* 「入る」、*bašta-* 「始める」、*jiber-* 「送る」、*kel-* 「来る」、*iy-* 「曲げる」) で表され、持続の局面が 3 種類の補助動詞 (*jat-* 「横たわる」、*tur-* 「立つ」、*otur-* 「座る」) で表され、終了の局面が 10 種類の補助動詞 (*öt-* 「過ぎる」、*sal-* 「入れる」、*čik-* 「出る」、*tašta-* 「捨てる」、*ket-* 「去る」、*koy-* 「置く」、*büt-* 「終わる」、*tokto-* 「止む」、*kal-* 「残る」、*bol-* 「なる」) で表されることが明らかになった。これらの他に、自然現象が主体として現れて補助動詞 *ber-* 「与える」が利益を与える意味になったり、また自然現象が生き物に見立てて表現された場合、補助動詞 *kör-* 「見る」が試行の意味で用いられる。また、今回の調査から、*jaa-* 「降る」に後続できない補助動詞として浮かび上がったのは *jür-* 「動く (歩く)」と *al-* 「取る (もらう)」であることを指摘した。

また、主体の特徴としては、補助動詞 *sal-* 「入れる」と *tašta-* 「捨てる」の場合、*jaan* 「雨」の場合に使用されず、*kar* 「雪」のみだったことを指摘した。また、補助動詞 *öt-* 「過ぎる」の場合には、*ötkün* 「夕立」や *möndür* 「雹」が使用されることが特徴的である。述語形式については、過去形、現在形、動名詞、過去形+疑問助詞の四つの形式が出現したが、命令形の用例は出現しなかった。

なお、もう一つの重要な点として、各節で多くの種類の副詞句及び副詞相当句と共起して出現することを述べた。特に、自然現象の動きを表す場合、それらの種類は非常に豊富である。場合によっては、補助動詞だけでは文法的な意味が生まれず、一定の副詞相当句と共起することによって、初めて文法的な意味が生まれてくること (例: *čik-* 「出る」、*otur-* 「座る」を参照) も指摘した。このことから、補助動詞と副詞相当句は切っても切れない関係であり、必須条件になる場合もあると言える。

最後に、一つの主動詞に後続する補助動詞の分析・考察を総括すると、補助動詞全体の体系化は単純ではなく、様々な条件と複雑に絡み合っていると見える。本稿は補助動詞の考察の一つの試みに過ぎない。今後、また異なる種類の主動詞を例に考察を行い、様々な観点から地道に補助動詞の考察を続けて、最終的にはキルギス語の補助動詞記述の体系化を目指したい。

## 略号

ABL = ablative, ACC = accusative, CVB = converb, DAT = dative, IMP = imperative, LOC = locative, NEG = negative, PASS = passive, PART = particle, PL = plural, PN = proper noun, POSS = possessive, PRES = present, PST = past, PTCP = participle, Q = question, SG = singular, 1/2/3 first/second/third person

## 参考文献

- アクマタリエワ ジャクシルク (2009) 「キルギス語の授受を表す補助動詞について」『東京外国語大学日本研究教育年報』14号, 1-20. 東京外国語大学日本専攻.
- アクマタリエワ ジャクシルク (2013) 『キルギス語の「持続」を表わす補助動詞 — *jat-, tur-, otur-, jür-* を中心に一』東京外国語大学博士論文.
- アクマタリエワ ジャクシルク (2021a) 「キルギス語とアルタイ語の補助動詞 *iy- / jiber-* の出現についての調査と考察」『北方言語研究』11号, 233-248. 北海道大学大学院文学研究科.
- アクマタリエワ ジャクシルク (2021b) 「キルギス語の「始動」を表す補助動詞」日本言語学会第163回大会 予稿集原稿, 31-37.
- アクマタリエワ ジャクシルク (2022a) 「キルギス語とアルタイ語の補助動詞 *čik-* 「出る」の対照研究」『北方言語研究』12号, 39-52. 北海道大学大学院文学研究科.
- アクマタリエワ ジャクシルク (2022b) 「キルギス語における「素早さ・突然性」を表す補助動詞」日本言語学会第164回大会 予稿集原稿, 265-271.
- 大崎紀子・シャミシエワ ナズグリ (2018) 「キルギス語の補助動詞 *kal-* の意味と本質 — アスペクトと共起制限をめぐる二つの疑問から —」, 林徹ほか (編) *Diversity and Dynamics of Eurasian Languages: The 20th Commemorative Volume, Contribution to the Studies of Eurasian Languages (CSEL) Series 20*. 345-362. The Consortium for the Studies of Eurasian Languages.
- Kudaybergenov, Sarıbay. (1987) *Kategoriya zaloga*. In: Zaxarova, O.V. (ed.), *Grammatika kirgizskogo literaturnogo yazıka 1: Fonetika i morfologiya*. 238-253. Frunze: Ilim.
- Ohsaki, Noriko and Akmatalieva, Jakshylyk. (2022) Volitionality and Kyrgyz auxiliary verbs *kör-* and *jiber-*, In: Kumiko Sato, Norikazu Kogura (eds.). *Aspects of Turkic languages: Phonology, Morphosyntax and Semantics*. 65-73. Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa Tokyo University of Foreign Studies.
- Ohsaki, Noriko and Ebata, Fuyuki. (2021) Verb-verb complexes in Central and Eastern Turkic languages. In: Taro Kageyama, Peter E. Hook, and Prashant Pardeshi (eds.). *Verb-Verb Complexes in Asian Languages*. 430-454. Oxford University Press.
- Yudahin, Konstantin Kuz'mič. (1965) *Kirgizsko-Russkiy slovar'*. Moskva: Izdatel'stvo Sovetskaya enciklopediya.
- Yuldašev, Ahnef Ahmetovič. (1965) *Analitičeskiye formi glagola v tyurkskih yazıkah*. 80-81. Moscow.



Auxiliary Verbs Following the Main Verb *jaa-* ‘to rain’ in Kyrgyz:  
Grammatical Meanings and Characteristics of the 21 Auxiliary Verbs

Jakshylyk AKMATALIEVA  
(JSPS / Niigata University)

Keywords: Kyrgyz, Turkic, auxiliary verbs, grammatical meaning

In this study, example sentences where *jaa-* ‘to rain’ was the main verb, were collected for analysis. This verb describes the movement of natural phenomena in the Kyrgyz language. The grammatical meaning of each auxiliary verb was checked and then comprehensively analysed and discussed, with a focus on the syntactic and morphological conditions (such as adverbial equivalent phrase, subject, predicate form). The results revealed the following.

First, regarding the co-occurring converb *jaay*, the auxiliary verbs indicating the end phase of the falling motion, such as for rain or snow, did not appear; only auxiliary verbs indicating the beginning phase and duration appeared. In terms of subjects, *jamgir* ‘rain’, *jaan* ‘rain’, and *kar* ‘snow’ appeared, with no noticeable bias. However, as there were only a few instances of the co-occurring converb *jaay* in the survey, these results are insufficient and require further investigation.

Second, regarding the co-occurring converb *jaap*, various auxiliary verbs appeared to indicate the beginning, continuation, and end of the falling movement, such as for rain and snow. In other words, the beginning phase of the falling movement was represented by four auxiliary verbs, the continuation phase by three auxiliary verbs, and the end phase by ten auxiliary verbs. The survey also revealed that the auxiliary verbs *jür-* ‘to move’ and *al-* ‘to take’ did not follow *jaa-* ‘to rain’. In terms of subjects, the auxiliary verbs *sal-* ‘put in’ and *tašta-* ‘throw away’ were not used in the case of *jaan* ‘rain’, but only in the case of *kar* ‘snow’. The use of the auxiliary verb *öt-* ‘to pass’ was also characterised by the use of *ötkün* ‘evening shower’ and *möndür* ‘hail’.

Finally, it was observed that each auxiliary verb co-occurred with many types of equivalent adverbial phrases, and there was a rich variety of adverbial and equivalent adverbial phrases for describing the movement of natural phenomena. In some cases, auxiliary verbs did not create grammatical meaning on their own; they created grammatical meaning only when co-occurring with certain equivalent adverbial phrases (for example, *čik-* ‘to go out’, *otur-* ‘to sit’). These findings indicate that auxiliary verbs and equivalent adverbial phrases are inseparable and sometimes a prerequisite.

(アクマタリエワ・ジャクシルク [ajbukarbekovna@gmail.com](mailto:ajbukarbekovna@gmail.com))